

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

葉月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは

葉月の月次祭にご参拝頂き

ありがとうございます。

八月七日、猛暑のなか瑞生大祭が聖地天恩郷で執り行われました。

前日の六日には宣伝使試補を対象とした月宮宝座参拝とみ手下付が行われ、午後は宣伝使昇・新任研修会が行われました。

今年是全国で宣伝使試補百三十六名、准宣伝使七十二名、正宣伝使三十一名の方が任命されました。

名古屋分苑では、宣伝使試補七名、准宣伝使四名、正宣伝使四名の方が任命されました。

七日瑞生大祭後の宣伝使辞令授与では、准宣伝使を代表して日比達朗様が教主さまよ

り拝受されました。

午後一時より一人一人に辞令が手渡しされましたが、本部で受け取られていない方には後程お渡しいたします。

瑞生大祭には、昨年より百五十三人多い八百三十三人の方が参拝されました。

又、六日と七日には、直心会のバザーが開催され、教主さまにおかれましては、ご多忙の中バザー会場にお越しになり、各地の方々と交流をされました。

バザーの出版に協力された方また販売に携わられた方々、大変お疲れさまでした。

八月八日高熊山祭典・瑞泉苑祭典・小幡神社祭典が終わりマイクロボスまでの移動中、教主さまは沿道にお立ちになり参拝者を笑顔でお見送り戴き、とても感激いたしました。瑞生大祭諸祭典が修了したのち全国的に大雨になり、南

九州では線状降水帯が発生して大変な状況でしたが、天候が大きく好転し、全国的に真夏の熱い日にもどり八月十三日からシン少年祭が開催されました。

お盆の時期に青少年の行事が行われたのは六年ぶりで、少年六十六人、青年八十七人、引率・ご奉仕の方を合わせて二百九十七人の方達が聖地に集まりました。

その中で名古屋分苑の少年達が、模擬祭典の祓式行事では三位、朗詠では見事一位を獲得されました。



日頃の、練習での成果を本番で発揮されたと思います。とても良い結果報告有難うございました。



まだまだ気温が高く暑い日が続きますが、熱中症等には十分気を付けてお過ごし下さい。

本日の参拝ありがとうございます。コーランダンコン

行事報告

● 月始祭

八月二日（土）

参拝者 二十四名

斎主 畠山 茂

祭員 畠山 亜美

進行 高嶋フミ子

● 月次祭

八月十七日（日）

参拝者二十八名

斎主 近藤 哲史

祭員 永島 昶

祭員 妹尾 正治

祭員 日比 達朗

裏方 畠山 茂

典礼長 小林 清人

伶人 飯田 直美

伶人 長谷川 美枝

進行 森 満政



●瑞生大祭献金バザー

日頃、直心会献金にご協力
いただきありがとうございます。

先日の瑞生大祭献金バザー
では、これまでの協力金・カ
ンパ・本部でのバザー売上金
を合わせて、二十五万円を本
部直心会に収める事ができま
した。

本当にありがとうございます。

また来年のバザーに向けて
皆様のご協力をよろしくお願い
いたします。

直心会長 川地貴子

行事予定

九月十一日（木）

全国一斉世界平和祈願

九月二十一日（日）

月次祭・長寿感謝祭

午前十時半より

九月二十七・二十八日（日）

祭式講習会・葬祭研修会

午前九時より

十月四日（土）

月始祭 午後一時半より

名古屋分苑 設立60周年記念 秋季大祭・祖霊合同慰霊祭 ご案内

「日 時」 令和7年10月26日（日）午前10時より（10/19より変更になりました）

「行 事」 記念講話 福引 他

「執行委員長」 近藤 哲史

参拝の皆様には60周年記念品を用意しています。多数のご参拝をお願い致します。

名古屋分苑 祭式講習会・葬祭研修会 ご案内

日 時 : 令和7年9月27・28日（土・日）午前9時より午後5時

講 師 : 加藤道明 本部祭務課長

内 容 : 家庭の月次祭が出来るように基本動作の習得 葬祭研修 他

服 装 : 作業衣・ジャージ等（動きやすい衣類）

その他 : テキスト 大本祭式・祭式資料（貸出・販売あり） 昼食代500円（1食）

じいじの道草雑話

【親父】

特任宣伝使 妹尾正治

今朝は早く目が覚めたの
で庭の草むしりを思い立っ
た。

電柱のてっぺんでハトが
『朝から元氣・朝から元氣』
と言っているかの様に、こ
つちを見降ろしてやかまし
いほど鳴き続けている。

無心に草むしりをしてい
ると、ふいに親父の顔が浮
かんできた。

親父は仕事の合間の十五
分の休憩でも、顔が見えな
いと思うと裏の畑で草を抜
いたり、梅についた毛虫を
素手で捕まえていた。

亥年生まれの血液型はO
型、答えが出ない内から行
動に移っていた。俗にいう

「猪突猛進」の親父である。

とにかく「思いついたら
直ぐに実行する人」「自分の
事は二の次にして家族や他
人に世話をやく人」そんな
イメージの塊の人だった。

そんな性分おかげで、四
人の子供たちが結婚するまで
には、土地と家を用意してい
てくれた。

後から聞いた話だが、退
職金を前借りしてまで子供
たちに準備してくれた様だ。
親父は七十二歳でこの世
を去った、今じいじは七十
六歳。

人は亡くなるとそこで歳
は止まり、残された者は歳
をとり続けていく。

親父の背中を追い続けて
生きて来て、いつの間にか
親父の年を追いついてしま
った。

親父からもらったDNA
は多少功を奏しているが、
まだまだ長生き以外は足元
にも及ばない。

この歳になってもじいじ
の憧れの人は親父である。

